

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	豊明市児童発達支援センター（保育所等訪問支援）			
○保護者評価実施期間	令和7年10月27日	～	令和7年11月7日	
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数)	1
○従業者評価実施期間	令和7年10月27日	～	令和7年11月7日	
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数)	2
○訪問先施設評価実施期間	令和7年10月27日	～	令和7年11月7日	
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数)	1
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月24日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	アセスメントに基づいた個別支援計画の作成を行うことができている。 事業所の母体が児童発達支援センターのため、支援内容にS TやP Tなどの専門職の知見を取り入れることができる。	契約前に保護者、子どもとの面談の機会と、所属している集団での様子を観察、情報収集する機会を設け、子どもの支援ニーズの把握に努めている。	職員の支援力を高めより適切な支援計画が作成できるよう、研修などの学ぶ機会を設ける。
2	必要に応じて、児童発達支援事業所や放課後等デイサービスなどとの支援者会議を開催し、子どもの支援ニーズの把握と支援計画のすり合わせ、役割分担を行うことができている。	相談支援専門員との情報共有を密に行っている。また、児童発達支援センターとして、市内の相談支援事業所や通所支援事業所との定期的な交流会を行っている。	地域事業所等が情報交換を行う交流会を、児童発達支援センターとして年2回開催している。また、地域の全体へ向けての研修の機会を提供している。これらの取り組みを通じて、連携の取りやすい関係づくりに努めている。
3	児童発達支援センター内に児童発達支援事業所と保育所等訪問支援事業所があり、児童発達支援を利用していた児童が保育園へ移行し保育所等訪問支援を利用する場合に、実際に過ごしている様子を知った上で訪問支援を開始することができる。	センターとして保護者と就園、就学、移行等についての相談の機会を設けている。	市内の保育課、学校教育課への連携を依頼し、顔の見える関係づくりを目標としている。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問・面談回数が足りないのではと思うことがある。	行事の前などに支援ニーズが高まるが、練習日に合わせて訪問日時を設定することが難しい場合がある。	行事への対応について、練習が始まる前にご家族や子どもの所属先の園、学校と打合せをする機会を設け、子どもに合わせた支援方法についてご提案していきたい。
2	普段連絡を取り合う保護者だけでなく、他のご家族やきょうだい児への支援の機会が少ない。	児童発達支援センターとして、家族支援の仕組みづくりを検討していきたい。 きょうだい児支援についても、情報提供などから進めていけたらと考えている。	ペアレントトレーニングや友達づくりのためのグループワークの機会などを提供できると良いのではと考えている。
3			